

「誤解」と「根拠ない批判」、差別や偏見も-自見はなこ・厚労政務官に聞く◆Vol.3

欠かせない心のケア、乗客だけでなく医療者も

インタビュー 2020年7月21日 (火)配信 聞き手・まとめ：橋本佳子 (m3.com編集長)

【自見はなこ厚労政務官に聞く】(2020年5月から6月にかけて複数回インタビュー)

- Vol.1 政務官が語る「ダイヤモンド・プリンセス」の真実
- Vol.2 感染制御は成功、船由来のウイルス国内流行せず
- Vol.3 「誤解」と「根拠ない批判」、差別や偏見も
- Vol.4 「ダイヤモンド・プリンセス」の教訓、国内対応に生きる
- Vol.5 新型コロナ対応、都道府県格差が鮮明に

——検疫の目的だった3番目の「乗員乗客の不安の解消」とは。**心のケアは、強調してもしすぎることはないと思います。**

一つは、**患者さんや濃厚接触者へのケア**。「ダイヤモンド・プリンセス」の乗客にはご夫婦も多く、仲良く船旅をしていた最後に、ある日突然、「**新興感染症**が船内で流行している」と言われ、個室隔離をされた。ある日突然ドアをノックされて、スワブを取られて、その2、3日以内に突然、検疫官がやってきて、告知されたりしたわけです。「あなたは陽性です」と言われ、その場で倒れ込んでしまった方もいました。一人が陽性で、一人が陰性だった場合、その場で引き離されてしまった。すぐに準備するよう言われ、入院して、中にはそれが今生の別れになった人もおられます。

家族旅行で、お子さんだけが陽性で、お母さんが錯乱しつつ、裸足で搬送されるお子さんを追いかけて行ったり……。残された方々はものすごく**落ち込み**、恐怖におののく。しかも船を出る時には、搬送調整中であり、どの病院に搬送されるかが分からないこともあった。外国人の場合、言葉が分からないという不安もあり、外務省の協力も得て、大使館につないだりもしていました。

DPAT（災害派遣精神医療チーム）の先生方に入っていたかかなかったら、中には**自殺**された方がいたかもしれません。その上、**私と橋本副大臣は、ITを使う必要性を当初から感じていました**。ソフトバンクから約2000台のiPhoneを無償提供いただき、LINEヘルスケアで薬の相談や心のケア等の相談ができる体制を作ったのはこうした理由からです。

一方で、**対応に当たった医療従事者や厚労省職員の心のケアも大切でした**。多い時には1日100人近くに**PCR検査**の結果を伝え、DMATの先生方などに病院に搬送していただいていた。こうした乗客の対応を毎日やっていたので、厚労省の職員がメンタルを病んだりもしているのです。

また、いかに厚労省が「DMATやDPATの医療者が、きちんとPPEを装着し、適切な感染防御をして患者対応した場合、濃厚接触者に当たらない。翌日から職場に復帰しても構わない」と事務連絡をしたとしても、病院長がそれをよしとしなかった。「いやそうは言っても、2週間は来るな」と言われた方がとても多かったと聞いています。子どもを保育園に預かってもらえないこともあり、本当に辛い思いをされたと思いますし、私たちも辛かった。



3月24日、「新型コロナウイルス対応に関する医療関係団体及び厚生労働省による協議会」にて。厚生省から、加藤大臣、橋本副大臣、小島・自見両大臣政務官のほか、担当部長が出席。（提供：厚生省）

——論文発表の目的に、「誤解」と「根拠ない批判」を正すことにあつたと書かれています。

私はドクターなので、常に事実を見て批判なりをしてもらいたいと考えています。例えば、臨床でも、何らかの経過中のワンポイントだけを取り上げ、その事実だけで局所的な批判をするのは適切ではないでしょう。それと同じで全体像を捉えて、批判していただきたい。

私も含め、厚生省全体で受け止める批判はあるとすれば、情報発信の部分だと思えます。どのようにその場を認識して、何をしようとしていたのかをもう少し明確に、できていることとできていないことを含めてお伝えできればよかったですと思いますが、厚生省でいかに網羅的に記者会見をしても、伝えられるのはごく一部だけが強調された内容でした。マスコミを介した集団とのコミュニケーションは独特の難しさがあるなど。ただし、一部のみを取り上げて、それが全てだと言って、未曾有の困難に立ち向かっている人たちに対して、根拠のない批判をするのはよくなかったと思います。それはDMATなど、「ダイヤモンド・プリンセス」の対応に当たってくださった先生方に対する差別、偏見なども含めてです。

——「ダイヤモンド・プリンセス」はイギリス船籍で、運営会社は米国本社という難しさもありました。

国際海洋法条約上、クルーズ船の検疫に関する取り決めがないのです。那覇を出港した後に、香港での下船者の陽性が判明した時点で、日本政府は寄港を断ることもできたと思います。しかし、発熱している方が31人おり、うち10人がPCR検査陽性だった。乗客の多くは日本人であり、何より人道的な観点から断れるわけがなかった。「困難だけれども、腹を決めて受ける」。他の国では、クルーズ船が寄港先を探している間に、新型コロナウイルス感染症以外の疾患も含まれますが、お亡くなりになった方もいるのです。

「ダイヤモンド・プリンセス」のキャプテンはご自身で、毎日3、4回乗客にアナウンスをしていました。病院に搬送後、お亡くなりになった人がいれば、お悔やみも言われていました。例えば、健康観察期間があと4日で終わるといふ時には、「あと4日で終わるので、がんばりましょう」など、励ましの言葉も忘れませんでした。ケーブルテレビの制作スタジオもあり、そこから室内でもできる運動を紹介したりもしていました。

もちろん、DMAT、DPAT、JMAT、AMAT、厚生省の職員や検疫官も含めて、頑張っていたと思います。ホスピタリティーにあふれた対応をしており、乗員乗客を支えていたのはキャプテン。チームとして一緒に仕事ことができました。そして何より、国内に感染症を広げないという水際対策を支えてくれたのは、乗客の忍耐であり、乗員の献身的な対応です。

——先生方は3月1日に下船し、健康観察期間に入りました。

その日に、キャプテンも下船しました。最後まで残ったエッセンシャルな役割を果たした厚生省職員は、3月15日まで健康観察期間に入りました。

その直後、米国のカリフォルニアで、同じ船会社の「ダイヤモンド・プリンセス」の姉妹船で、船内感染が出ているとのニュースが入ってきました。すぐにCDC（米疾病予防管理センター）に連絡して、私たちの教訓をまとめて伝えるとともに、テレビ会議を開きました。基礎疾患を持つ人が多いので、薬の手配をする。分散下船を速やかに進める。クルーの手指衛生の徹底……など、その内容は詳細なものです。

3月15日に健康観察期間が終わり、橋本副大臣と厚労省に戻っています。本省に戻ったのは約1カ月ぶり。その後、日本国内でも感染拡大が続きましたが、「ダイヤモンド・プリンセス」で起きたことは、今度は日本国内で起きてくる——と私は思っていました。

新型コロナウイルス 特設ページ

COVID-19

最新コロナ情報を確認



本記事をお読みになって、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する以下の設問にお答えください。

進捗ポイント 0ポイント

開示範囲等

本アンケートの結果は、個人情報保護方針および関係法規に準拠し、以下に活用する可能性があります。

- 個人が特定できない形で集計した結果の医療従事者への公開
- アンケート集計結果および／または回答内容と先生のご氏名・ご所属等情報のデータ活用企業への提供
- データ活用企業における販売情報提供活動

Q1 この記事は、新型コロナウイルス対策において、どれぐらい役に立ちましたか？（非常に役に立つ=10）

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q2 現時点の新型コロナウイルスに対する、ご自身の警戒レベルはどれぐらいですか？（警戒していない状態=0）

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

上記個人情報の取り扱いに同意して送信

シリーズ [新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連情報](#) »

記事検索

ニュース・医療維新を検索

